

共同研究契約書

(契約項目表)

1.甲	国立大学法人筑波大学			
2.乙	しなの鉄道株式会社			
3.研究題目	しなの鉄道沿線 郷土植生回復実証実験			
4.研究目的	<p>鉄道沿線では外来植物の繁茂等による植生管理が課題となっている一方、動植物等の生息地として郷土の生態系の一部としての役割を担える可能性がある。先行研究によって、日本の土壌酸性度はおおむね高く、土壌の酸性度を高める資材を散布することで外来植物を抑制できることが報告されている。そこで、鉄道沿線の外来植物を抑制して郷土植生を回復することを目的として、土壌資材の散布実験を行う。</p>			
5.研究内容	<p>土壌資材として塩化アルミニウム粉末を、しなの鉄道沿線の数箇所（長野県上田市等）に散布する実証実験を行い、土壌酸性度が上がるか、外来植物が減るか、在来植物が増えるか等、鉄道沿線の郷土植生の復元・保全に対する有効性を検討する。</p>			
6.研究分担  (研究担当者及びその役割)	区分	氏名	所属部局・職名	本研究における役割
	甲	田中 健太	生命環境系・山岳科学センター・准教授	研究計画、土壌調査、植物調査、研究成果の発表
	乙	岡田 忠夫	専務	研究の調整、実施
宮下 智明		運輸部工務課 軌道係長	研究場所の選定・維持管理、土壌資材の調達・散布、看板の作成・設置・維持管理・撤去 鉄道沿線の安全管理	
7.研究実施場所	<p>甲:筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 乙:しなの鉄道沿線(大屋駅～信濃国分寺間)</p>			
8.研究期間	令和2年6月1日から令和4年3月31日まで(第3条)			
9.乙の研究経費の負担 (消費税額及び地方消費税額を含む)	① 直接経費	② 間接経費	③ 研究料	
	0円	0円	0円	
	合計(①+②+③)		0円	

